

# H-B.e.t.c

vol.3



成年向  
FOR ADULT ONLY

# H-B e.t.c

vol.3



「鬼神」と呼ばれ「ゆらぎ」達に恐れられてきた女、

魔法戦士メグ

しかし、そのような過去を消し去ってしまうくらいのもう、無様な痴態を晒し、敵の手に堕ちたメグを待っていたのは、呼吸をするのと同じくらい感覚で犯され続ける日々だった。

…その相手は、昔からのなじみの顔であり、自らの手で殺したはずの少女、マユ。

メグは、ゆらぎとして復活した彼女に、異常な愛情を持って犯しに来る彼女に、身も心も支配されていくのだった。

今宵はそんな彼女達の一部を覗いてみよう…



んふふー♡  
素直だね、メグ姉さま

やっぱり、わたしのもの  
だけの事はあるね。  
自分の立場を、ホント  
よくわかってる♡

わ…、融、わたしい♡  
おっぱいだけで…ああっ♡  
し、支配されちゃってる  
こんな、小さな子に…  
おっぱいだけでえええ♡♡

—こちやういっ♡

ああっ♡♡♡

はあ♡

んあっ

んんっ♡

なーっ♡

んんん♡  
んんん♡  
んんん♡

あっ♡

いじゃあ、そんなん  
いっよ—♡

んん♡  
んん♡

はあ♡  
はあ♡

んんん♡  
んんん♡  
んんん♡

んんん♡  
んんん♡  
んんん♡



んっ♡  
んんっ♡

ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡

はあぁっキ、キス  
すんじゅっ♡

胸えっ♡ごんごん  
ミルク貯まっちやうっ♡

んっ♡

私のおっぱい♡はっ…  
はち切れきつなのになっ♡  
でも…まだまだ野まっして…  
頭の中までミルク  
一杯だわなっ♡

♡…狂っかきかき  
♡おおおおっ♡

あはっ♡メア姉様の  
顔、もっ♡おっぱい  
もっ♡にたたくて  
堪っないのな？

じゃあそっ♡おっぱい  
あげる。  
姉様の大好きな  
アナルで♡

あはっ♡出た出た  
すっごーい♡

まだまだ絞れる、  
全然止まらない♡

やっぱりメグ姉様は  
ミルクタンクで乳牛  
なのね♡はっすかしい♡





入れてあげなくちや  
タメだよねっ♡

まんっ…

ひゃあああ♡♡♡

あ♡♡

あ♡♡

びん♡

あああ♡♡

アハハハ♪とんたんと  
入っていきよ。  
メグ姉様のアナル  
壊れないように頑張ってね

やあああ♡♡  
お尻ゴリゴリってえ♡

削れるっ♡  
お尻削れるうううっ♡

まっ♡ まだ入ってくるっ!!  
いっばい入ってきてくるっ!!

もっ、もう止めてええっ!!  
壊れるっ、ホントに壊れる  
からあああああっ!!

アハッ♡ だいぶお腹  
膨らんできたなっ  
すっ♡ すっ♡ すっ♡

マ…マユっ!! お願いだからっ  
もっ…もう止めてええっ!!  
じゃないとっ…  
じゃないとおおっ!!

もっもっだめえええっっ♡  
おっ♡ お尻さけるっ!!  
裂けちゃっっっっっっっっっ♡♡

んふっ♪ メグ姉様のお腹  
性婦さんみたい♡ まだまだ  
入っっっっっっっっっ♡

だめえええ  
えええっ!!

おっ…お腹破裂  
しちやっっっっっっっ!!

じゃあ、マユのお腹に  
閉じ込められたら、ちよっと  
優しくしてあげてもいいよ♡

聞くっ!! 聞くからっ  
マユのお願いなんでモ  
聞くからもう許してええっ!!

わーい♪ じゃあ、このまま  
アナル一日中犯し続けたいなあ♡  
ね、いいでしょメグ姉様♪

そっ…そんなっ!!

やあああ  
あああ♡♡

メドゥーサ……、古に恐れられた呪われた女神……。

その存在を現世に英靈<sup>サーヴァント</sup>として復活した姫騎士<sup>ライダー</sup>。

彼女の仕えるべき主は、間桐桜であり、

彼女のいるべき場所は、衛宮士郎のいる家だったはず……。

しかし、今の彼女のいる場所は遠く離れた旅船の中、

その場で彼女は新たな主達の前で腰を振り、その肢体を戦慄<sup>わなな</sup>かせ、性の奴隷と成り果てていた。

昔の主を守るため、自分の大好きだった場所を守るため  
慰み者となってまで懸命に奉仕する姿は、たまらなく淫靡だった……。

そして、その行為を続ける彼女が普通でなくなるのは、  
時間の問題だった……。

——そう、もはや普通ではなかったのだ、彼女の肉体は——

とある豪華客船の中、大勢の男達の前で  
逃れようも無い痴態をさらしたライダーさん。  
何日か過ぎた後、正気に戻ったものの  
自分の体が、すでに手遅れである事を悟り、  
戸惑いつつも、この状況を受け入ってしまう...  
それ以降、色々な衣装に着替えさせられ船内を  
うろつくのが日課となっている。



あ...♡ だめっ  
だめですっ...  
...あ...ああっ♡♡

お...お願いですから、せつ...  
せめてもっ少し人気の無い  
所で...ああっ♡だっ...だめっ、  
こんなところだえ...♡♡

こっこんなところで  
そんな、無節操に  
ああっ♡ま、待つて♡

男達に見つかったその場で、SEXをさせられる  
拒んでも、簡単な愛撫を受けただけで墮とされてしまう。  
そんな状態なので、ショーツは常に濡れている状態に。  
そして、そのまま下着越しにクンニをされることが多い。

拒みつつも、相手の為すがままにされてしまう  
ライダーさん。船内の通路だろうが  
トイレだろうが彼女の気持ちなど  
お構いなしに男達は、その肉体を遊ぶ。

ライダーさん自身も最初こそは  
嫌がっていたが今ではただ抵抗する  
「フリ」だけで本気で嫌がっては  
いなくなっていた…

ま、まって…  
だめっ…このままじゃ

ああああ  
ああああ  
うううう

ああっ♡こんなところでは  
はっ、はしらないのじっ♡  
だめっ…もうだめえっ♡♡

事が始まってしまえば、  
彼女の心は、一本の肉棒に  
よって支配されてしまう。  
いかにして味わうか、  
より深い快樂を得るために  
どう自分は動くべきなのか  
それ以外のことは考えないし  
考えたくもなかった。

彼女の口から溢れ出る  
言葉とは裏腹に、  
その肢体は、ただ、  
ひたすらに、その甘美の  
極みをむしゃぶり尽くし、  
さらなる境地を追い求める…

また一步、こうして  
逃れられない淫獄の奈落へと  
墮ちていくライダーさんだった…。

次々と交替してライダーさんを犯していく男達、一日で何人相手させられるかは、運次第というより、男達の気分次第だった。

ちなみに、多い時は一日で30人以上も相手させられている事もある。

少なくとも今までに10人以下という事はなく、またこれからも無いのだろう…

あっ、はあああっ♡♡♡  
はっ…♡…♡…激しいっ♡

激しすぎるっ♡♡♡♡♡  
だめえ♡またイクっ♡  
イカされちゃっ♡♡

あひああああ  
ああんんっ♡

そうして、絶え間なく彼女の肉壁と尿穴を犯し続け彼女の悲痛な喘ぎ声が一際高くなっていく。すでに何十発ものザーメンを体内に注がれながらも彼女に安らぎは無い…。

そして、…その目付が変わる頃ようやく男達が飽き始めたのか彼女の体を開放していく。…ほんの少しの間だが、彼女は休息を得られるのだった…

びんんんっ♡♡♡♡♡  
びんんんっ♡♡♡♡♡







ああっ♡♡  
だめっ♡♡  
アイゾーっ♡♡  
だめです♡♡♡

わかつとる、わかつとる  
ここがたまらんのやろ？  
心配せんでもええで

こんなんでイカさせたり  
せえへんからな、ギリギリ  
まで気持ちよくさせたるわ

そっ…そんなっ!!  
お…お願いだから、そんな  
中途半端なことしないでっ!!

あっ♡ あっ♡ あっ♡  
やああっ、またそこばかり  
いじらないでええっ♡♡

検査と称する全身愛撫を受けるライダーさん。  
エイゾーはチンコをいきり立たせながらも見せつけるだけでそれ以上のことはまだしてこない。  
どうしようも無いくらいのおスの匂いを巻き散らせながら局部をいじり倒しながらも  
絶頂を迎えさせることは無く、感覚だけが昂ぶらせられる。その手つきは手慣れた物で、  
ライダーさんのどの場所が寄り感じるかを知り尽くした動きだった。  
言葉通り絶頂寸前まで追い詰められるものの、決してイカされることはない。  
もちろん自分で秘所を弄ることは許されない。そのパラドックスの中で絶望を味わいながらも、  
その身は悦びに打ち震えていく。

充分にできあがった肢体に、さらなる快楽を染み込ませるために特製の媚薬まで塗り込まれるライダーさん。すでに子宮は降りてきていつでも子種を受け入れる準備も出来ているのに、その場所に望んでいる物は与えられない。おそらく挿入されただけでイッてしまうであろう肉体を時間をかけてゆっくりとゆっくりと丹念に、より鋭敏に仕上げていく。さながら一つの芸術作品のように。



そんなにつっくりワリトリスしこいちゃ...

はああっ♡ イっ♡ イキきっ♡ イキきっ♡ イキきっ♡ イキきっ♡

あっ♡あっ♡



あああっ♡ ちっ♡ 乳首♡ コリコリされるのっ♡ きっ♡ きもちいいいいっ♡

はあっ♡ はあっ♡

はあっ♡

おっ♡ おっ♡ お願いですっ...

お願いですから、もう私をイカせてください♡♡♡

もちろん乳首もその魔の手から逃れることは出来ない。始めは強く、そしてだんだんと優しくしごき上げていく...。すでにその責めだけで絶頂してしまいそうなのにライダーさん以上に、この身体を知り尽くしたこのエイゾーは、その間際で弄んで決してイカせない。イカせるはずがない。ライダーさんの懇願も無視してただひたすらに体の隅々を愛撫し続ける。腋もうなじも指先までも...。これはすでに検査という名目の快楽拷問になっていることすらライダーさんは気付くことすら出来なくなっていた...

あまりにもしつこい責めでありながら  
一度も絶頂を迎えさせてもらえない  
ライダーさん。ようやく検査が終わり  
ここで抱いてやっても良いという、

エイゾーの言葉に  
抗う事すら忘れ、  
自ら男の体に跨り  
己の秘所を  
エイゾーの肉棒に  
擦り付ける  
始末。

.....もはや、  
その姿に  
プライド  
など、  
微塵も  
感じられ  
ない...

おっ♡ おチンポっ  
入っくるっ...♡♡

入ってきます  
うっうっ♡♡

んはあっ♡

エイザーも我慢することなく  
すぐさま一発目の膣内射精を  
終えるがその程度で萎える  
はずもなく、むしろより太く  
硬くなっていくのを己の膣で  
感じ取るライダーさん。

その刺激を受け、さらに  
激しく腰を動かしながら  
何度も絶頂を迎えるのだった。

一度挿入が始まれば、  
獣のような叫び声をあげ、  
「おあずけ」をくちっていた  
分を取り返そうとするほど  
その腰つきは貪欲に精液を  
絞り採ろうしていく。

ただ、ひたすらに快楽を  
貪っていくライダーさん。

何発目かの  
膣内射精を受け  
止めながらも  
その精液を  
むしゃぶり尽くす  
ライダーさん。  
まさに一匹の牝  
そのものだ…

ようやく、男達からも  
エイゾーからも解放され  
自由の身になれたライダーさん。  
その日は久々に誰も訪れない。  
安息の日ははずだった…。  
しかし、いつの間にか  
その手は、指は、  
己の秘部を探り始め…  
そして、いつの間にか  
弄り始めていた…。

戸惑いながらも、その手は、  
肉震から離れることはなく  
さらに深いところへ  
潜り込んで行く。

そして一度目の絶頂を迎えた時  
安堵と共に訪れたのは、さらなる  
絶頂への渴望だった。

ライダーは自分の体が一時たりとも  
快楽から放たれる事を望まない…  
望むことすらない体になり果てていた事に  
ようやく気付いた…。そして、それは  
際限ない悦楽への無間地獄へと  
続いていくのだった。

はっ…♡はっ♡  
はあぁあぁっ♡

ど…どっして粘っ…  
こんな…、はしたないっ  
旦那いいいいっ♡

はあぁあぁっ♡  
はあぁあぁっ♡

だめっ…イクっ  
イってしまっ♡

あぁっ♡やあっ  
イっちやうっ♡

どれほど絶頂を迎えようとも、満たされることは無い  
なぜなら、今日はその体に一滴たりとも精液が  
注がれることは無いのだから…。  
その事に気付いてしまったもののその指は止まらず  
むしろ加速していく一方になる事を嫌悪する反面  
とても言い表せない快楽に夢中になっていく  
ライダーさん。

いつしか、全てを忘れ、ただ一心不乱にその  
濡けきった肉壺をより一層、溶かしつくす  
ために激しく己の指で掻き回していく…。



シーツはぐっしょりと濡れ  
そぼっているのにその指が  
止まろうとすることは無い  
おそらく、今夜一晩中  
このシーツが乾く事は  
ないだろう…。

そしてそのシーツは  
びしょびしょに濡れたまま  
彼女の体を包むのだろう。

翌朝、彼女がシーツを  
取り替える時、それはまた  
新たな淫猥なる日々が  
始まるに過ぎないのだった…。

## あとがき

どうも、B-RIVER ですー。  
今回は昔に出したコピー誌をまとめた本、  
「HBetc」の3冊目になります。  
といっても、メグ姉さまとライダーさんの本だけだったりしますが。

多少、加筆させてもらいましたが、両方のコピー誌を持ってる方は  
あんまりお得感がない感じになってしまってるかもしれません；  
でも、この組み合わせで喜んでいただいている方も居られるようなので  
そういう方には良い本になってればいいなあ、とが思ったり。

基本的にこの二人のお姉さんキャラは、エロエロなことをされると  
非常に脆かったりする感じで、自分は大好きなんですよー。  
(ライダーさんは、公式でそういう設定ではないですが、うちでは  
そういう扱いです (w))

メグ姉さまを虐め倒す本をもつと描いてみたいなあ、と思いつつ  
ライダーさんのバイト的日常の後編を描かないと、とも思ってしまう  
感じです。

さて、時期外れなタイミングでこの本を出してしまいましたが、  
次の参加イベントは COMIC☆1 になります。

(受かっていけばですが；)

どういう本になるか内容はまだ未定ですが、  
エロエロな本になるのは確かです (w)

では、また次の本でお会いしましょうー。



奥付：「H・B etc vol.3」

発行：H・B 代表：B-RIVER 初版：2012.2.27

印刷：サングループ

メール：hb\_river@yahoo.co.jp

HP：<http://www.palette-e.com/>

\*本作品の無断転載（ネット含む）、及び未成年の閲覧、購入を固く禁じます

